

平成 23 年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報 告 書

札 幌 市

目 次

調査の概要	1
I 調査の概要	1
II 調査対象者の特性	2
III 表の読み方	3
調査結果の概要	4
I 男女平等に関する意識	4
男女の平等感について	4
「男性は仕事、女性は家事や育児」という考え方について	7
政策・方針を決定する場に女性の参画が少ない理由について	9
II 仕事について	11
女性が働くことについて	11
女性が働く上で支障となること	13
男性の育児休業や介護休業の利用について	16
III 家庭生活・地域活動について	18
結婚、家庭、離婚に関する考え方	18
家庭での主な担当について	21
男性の家事、育児、介護参加に必要なこと	24
家族が介護を必要とするようになった場合の担い手	26
男性の仕事と家庭生活・地域活動の関係	28
女性の仕事と家庭生活・地域活動の関係	30
IV 男女の人権について	32
女性の人権が尊重されていないと感じること	32
配偶者や恋人、パートナーから相手に対して行われた場合、暴力だと思うこと	34
ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談窓口の認知度	37
ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験などについて	39
ドメスティック・バイオレンス（DV）を経験した際の相談先	41
ドメスティック・バイオレンス（DV）の防止に必要な取組	43
セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）について	45
各種メディアの性・暴力・固定的な役割分担の描写について	47
女性の生涯にわたる健康づくりのための支援策	49
V 男女共同参画に関する施策について	51
男女共同参画に関する事項の認知度	51
札幌市男女共同参画センターの利用度	56
男女共同参画センターで行われている事業の認知度	58
男女共同参画社会を目指すために学校教育分野に必要なこと	60
男女共同参画社会を目指すために重要なこと	62
設問・単純集計結果	64
集計表	74

調査の概要

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識や実態、ニーズを把握し、今後札幌市が取り組むべき男女共同参画施策の基礎資料とするために実施した。

2. 調査の内容

- (1) 男女平等に関する意識
- (2) 就労状況
- (3) 家庭生活・地域活動
- (4) 男女の人権
- (5) 男女共同参画に関する施策

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 札幌市全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 4,000
- (4) 調査方法 郵送による調査（往復）
- (5) 調査期間 平成23年7月8日～7月31日
- (6) 抽出方法 等間無作為抽出

4. 回収結果

- (1) 回収数（率） 1,422（35.55%）
- (2) 有効回収数（率） 1,422（35.55%）
- (3) 回収不能数（率） 2,578（64.45%）

Ⅱ 調査対象者の特性

区 分	実 数	比 率
全 体	1,422	100.0
【年齢】		
20 歳代	129	9.1
30 歳代	217	15.3
40 歳代	221	15.5
50 歳代	213	15.0
60 歳代	286	20.1
70 歳以上	227	16.0
無回答	129	9.1
【性別】		
女性	797	56.0
男性	493	34.7
無回答	132	9.3
【職業】		
会社・団体などの役員	56	3.9
正規の社員・職員	305	21.4
派遣・契約社員	85	6.0
パートタイマー・アルバイト	168	11.8
自由業・自営業・家族従業	101	7.1
家事専業	207	14.6
学生	12	0.8
無職	317	22.3
その他	34	2.4
無回答	137	9.6
【既婚・未婚】		
未婚	251	17.7
既婚（配偶者等あり）	857	60.3
既婚（配偶者等と離別・死別）	182	12.8
無回答	132	9.3
【家族形態】		
ひとり暮らし	212	14.9
夫婦（カップル）だけ	406	28.6
親と子ども(二世代)	527	37.1
祖父母と親と子（三世代）	68	4.8
その他	76	5.3
無回答	133	9.4

Ⅲ 表の読み方

1. Nとは、回答総数（あるいは分類別の回答者数）のことである。
2. 記号の意味は、次のとおりである。
 - ・ F : 回答者の基本属性（性別、年代、家族形態等）についての質問（Face Sheet の略）
 - ・ SA : 1つの回答ができる質問（Single Answer の略）
 - ・ MA : 2つ以上の回答ができる質問（Multiple Answers の略）。このときMT（Multiple Total の略）は回答数の合計を回答者数（N）で割った比率であり、通常その値は100%を超える。
3. 数表のうち、－は出現率ゼロのものである。
4. 回答率（各回答の百分率）は、Nを基数として算出し、小数第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合（99.9あるいは100.1）がある。
5. 1人の対象者に2つ以上の複数回答（「2つまで」「3つまで」「いくつでも」など）を認めた質問の場合、比率の合計は、回答者数を基数としているので、100%を超えることがある。